

# さらに

## ✿ 次のステップへ向けて ✿

あなたの自分のまちを良くしたい、という活動は、かなり進んできました。

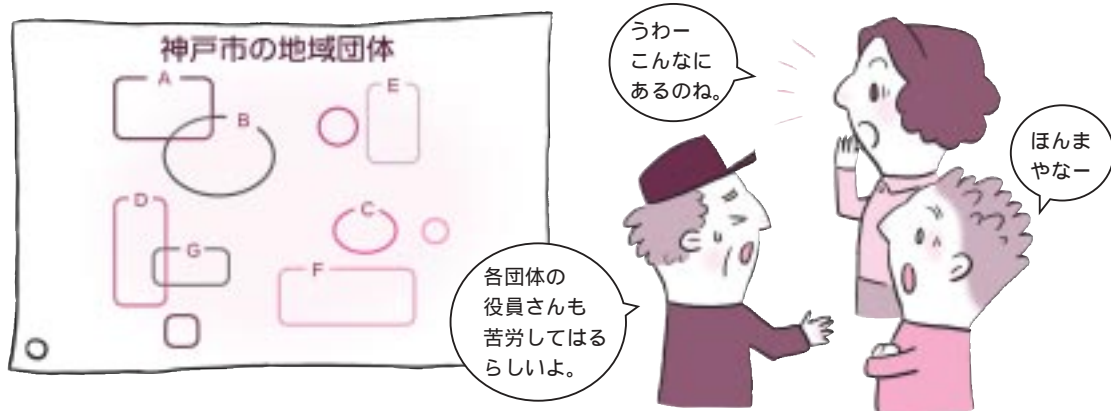
ここで、さらにもっとその活動が発展するためには、どうしたらいいのでしょうか？

「一人ひとりからできること」から始まった地域活動は、おそらく次の段階にさしかかっているはずです。そのためには、すでにある地域団体との連携が課題となってくるでしょう。

# 地域のゆるやかな連携

## 同じ地域にある、さまざまな地域団体

これまでも何度か触れてきたように、同じ地域の中にも、たくさんの地域団体があります。それぞれ固有の目的や構成員を持ち、活動範囲もさまざまです。また、行政がリードして作られた組織もあれば、住民主体でつくられた組織もあります。さらに地域によっても状況は異なり、ある程度まとまって活動している地域もあれば、独自にしている地域もあります。このように多くの地域団体があることは、それだけ多くの地域課題に対処できるわけですが、一方では、過度の負担や混乱も生み出しています。



## 「地域団体がたくさんある」ことの問題

このように「地域団体がたくさんある」ことの問題には、どのようなものがあるのでしょうか？

### 会長や役員に集中する責務

いくつもの団体の会長や役員を兼務することになった人たちには、さまざまな仕事が集まります。そのため会議に多くの時間を割かざるを得なくなったり、各種の行事の準備に翻弄されたり、大変苦労されている方もいらっしゃいます。

### 同じ顔ぶれの役員

住民の地域活動への関心のなさ、担い手不足から、一人の役員が何期にもわたって在職されることがあり、新しい地域団体が生まれる度にその役員を兼ねていく、というような状況が生まれています。結果として、どの団体にも出席してみても同じ顔ぶれの役員がそろってしまい、組織のあり方を疑問視するような声もあります。

### 地域団体の活動範囲にずれがある

例えば自治会と婦人会の区域が異なる場合など、その活動範囲にずれがあると、事務手続きをはじめ、周知もれなどのさまざまな問題が発生し、地域の一体的な活動が難しくなります。

### 立場が異なれば、全く知らないことも！

一方で、ニュータウンなどの新しいまちでは、団体の趣旨や構成員が異なれば、お互いのことをほとんど知らず、情報交換もなく、相互理解が不十分なところもあります。

## 地域団体、連携のすすめ

このような問題点があるのは、望ましい状況とは言えません。各地域団体がそれぞれの目的や活動内容、活動や範囲を持っているにせよ、少なくとも、お互いを認識し、情報や知識などを共有していく必要があると考えられます。それが、全体として地域をより良くしていくための、第一歩となるでしょう。

## 連携で生まれるさまざまなメリット

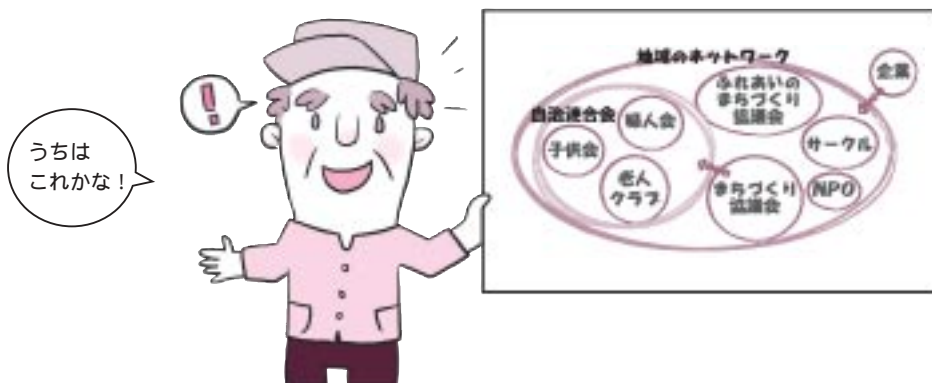
地域団体がうまく連携することで、問題点の多くが解消でき、新たなメリットが生まれます。

- 効率的な役割分担 : 地域の人材を適切に配置し、効率的な役割分担が可能になります。
- 効率的な予算配分 : 場合によっては、各団体の予算を、地域の実情に合わせて適切に配分することができます。
- 地域の一体性の確保 : 地域に一体感が生まれ、個性を発揮しやすく、また運営もスムーズに進めることができます。
- 地域活動の相乗効果 : さまざまな地域活動を連動させることで、お互いの活動に刺激を与えあい、相乗効果が期待できます。

こうしたメリットは、地域に新しい価値を生み出し、自分たちが行う活動を、さらにステップアップさせる基盤を築くのです。

## 地域に合わせて、いろんな連携があっていい！

ではそんな地域の連携は、どのような姿があるのでしょうか？ 各地区において、地域団体のあり方がさまざまであるならば、何かひとつの決まったモデルのようなものは、つくろうと思ってもつくれません。そこは、各地区の状況に合わせて、それぞれが工夫しながら、望ましい連携の形を探ることが必要になってくるでしょう。例えば、自治会活動がしっかりしているのならば、それを主体として他の地域団体を部会のようなかたちで位置付けることもできるでしょうし、ふれあいのまちづくり協議会の活動がうまく進んでいるところであれば、横並びのネットワークをうまく活かす方法もあるでしょう。地域に合わせていろんな連携があって良いです。



では、神戸市内でも、うまく地域団体の連携が進んでいる地区をご紹介します。

# 連携の事例紹介

## 六甲アイランド地区 ~ひとつのテーマの下に連携が始まった事例~

### 地区概要

面積：131ha

人口：17,442人

世帯数：6,815世帯

地域団体：六甲アイランドシティ自治会、地域振興会など、53の地域団体



六甲アイランド

### 地区の現状とこれまでの経過

#### 日本一大きな自治会

六甲アイランドシティは、東灘区の沖合いに建設された人工島の中心部にあり、昭和63（1988）年に入居が始まったニュータウンです。現在約15,000人、5,300世帯程度の人々が住み、また企業などもたくさんあるため、多くの人々が働いています。まちの中心部には、リバーモールというせせらぎが流れ、外国人居住者も多く、「オシャレで住みたいまち」と紹介されることも多いところです。まちができて20年近く経ち、さまざまな地域活動の団体が根づいてきましたが、このまちの特徴は、島全体で自治会がひとつと言うこと。これは日本一大きな自治会ですが、それだけ多くの住民や事業者、地域団体が協力しあわなければならない必要がありました。



コンパクトタウンニュース

#### 落書きの急増

このオシャレなまちにも、公共施設の壁などにさまざまな落書きが、急に増えてきました。これに対して、自律的な地域のまちづくりを検討していた「コンパクトタウンフォーラム」が危惧し、自主的な調査を行ったり、ニュースで呼びかけたりしてきました。一方、自治会も住民からの直接的なクレームを受けており、対処に苦慮していたところでした。

#### 地域の連携へ向けて

そこで両者が手を取りあい、区役所や「協働と参画のプラットフォーム」とも協議し、六甲アイランドシティ内のさまざまな地域団体と連携をとり、この問題の解決にあたるという方向性をまとめていったのです。これまでの「公共施設だから行政で」という考え方ではなく、「我々住民ができる部分はやってみよう」という考え方に変わり、住民自身で落書きを消し、まちをきれいにしようという自律的な活動に変わっていったのでした。

## 地域課題の解決へ向けた活動

### 六甲アイランドクリーンアップ大作戦

これまで「クリーンアップ作戦」として、自主的な清掃活動は定期的に行ってきたのですが、地域の諸団体が一体となって何かの活動を行う、ということはありませんでした。そこで自治会を中心に、地域団体の長が一堂に会する機会を数回重ね、それぞれの意見やスケジュール、役割分担などを調整しながら、自治会、青少協、婦人会、ふれまち協、企業、学校など各団体が連携して活動できる体制をつくってきました。住民自身で落書の実態を調査し、事前には落書消しのデモンストレーションの機会も設け、地域の大会「夏まつり」の直前に、「六甲アイランドクリーンアップ大作戦」として落書消しを実施しました。結果として、地域内の17団体、約200名が参加し、調査で確認できた172箇所のほぼ全ての落書を消すことができました。その後、落書が再び繰り返されているものの、住民も自主的に落書消しを行い、数回の「六甲アイランドクリーンアップ大作戦」を経て、その数は大幅に減ってきています。



落書消しの様子

### まちかど会議

この活動の大きな成功を受けて、住民の間には、地域団体の連携をより進めていくことが必要であるとの機運が高まり、各団体に呼びかけ「『美しいまち』まちかど会議」が開催されました。各団体が横並びで意見交換することの重要性がここで新たに確認され、「まちかど会議」は継続性を持つものに発展していきます。数ヶ月に1度の定例会、年に1度の総会が位置づけられ、参加団体も徐々に増え、今では60団体を超えるようになりました。そして、情報交換だけでなく具体的な課題に対応できる体制づくりを求める意見が大きくなり、「将来像」「環境」「安全・安心」をテーマとした3つの部会が設立されました。今では、六甲アイランドの将来像づくりや、マナーの向上に向けた取り組みなど、各部会のテーマに則した活動が始まっています。



100名以上が一同に会した「まちかど会議」

六甲アイランドでは「まちかど会議」を中心に、地域団体の「ゆるやかな連携」の仕組みが徐々に確立されつつあります。

## 野田北部地区 ～総合的に地域の連携を進めている事例～

### 地区概要

面積：約13ha

人口：1,863人

世帯数：1,011世帯

地域団体：野田北部まちづくり協議会、自治連合会、婦人会、長寿会、

(特)たかとりコミュニティセンター(TCC) 鷹取駅前商店会 など



震災時の様子

### 地区の現状とこれまでの経過

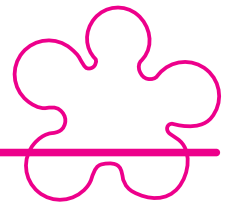
野田北部地区は長田区の西端にあり、住商工が近接する情緒あふれる下町です。震災前からまちづくり協議会が立ち上げられ、道路や公園の整備に取り組んでいました。ところが阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、特に地区の東半分は火事により全焼するという壊滅的な状況に陥りました。そして都市計画決定で地区の東半分だけが区画整理事業の適用を受けたのですが、野田北部地区は区画整理事業の有無により地区が分断されることのないように、行政とねばり強く折衝をかさね、協働による取り組みを目指してきました。その結果、「まちなみ環境整備事業」の適用を受けたり、さまざまな復興支援事業を活用し、震災以前よりも安心して安全なまちとして再生し、神戸でもいち早く復興を成し遂げたのでした。

### 野田北ふるさとネットの仕組みと成り立ち

このような震災からの復興では、まちづくり協議会が大きな役割を果たすのですが、必ずしも一団体だけで実現できたわけではありません。婦人会や老人会、自治会、地域で活動していたさまざまなNPOやボランティア団体などが連携をとりながら活動してきたことにより、はじめて達成できたのです。ただ、区画整理や住宅の再建などがほぼ終わった段階で課題となったのが、相互の活動の理解が十分でないことでした。この解決策としてスタートさせたのが、「野田北ふるさとネット」。これは地域に関わりのある団体や人々をネットワークで結び役割を担っており、各団体が横並びで、情報交換や、企画運営の調整などを行っています。月1回の定例会を通じて、地域を一体的に運営していこうとしています。

区分	協議会	相互協	市民連合会	PTA	婦人会・老人会	備考
東	野田北部まちづくり協議会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区自治連合会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区PTA 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区婦人会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区老人会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区まちづくり協議会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子
西	野田北部まちづくり協議会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区自治連合会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区PTA 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区婦人会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区老人会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子	野田北部地区まちづくり協議会 会長 野田 幸子 副会長 野田 幸子 事務局長 野田 幸子 役員 野田 幸子

震災時の様子



## 地域の課題解決へ向けた活動

野田北ふるさとネットの活動は多岐にわたります。ここではそのいくつかをご紹介します。

### 「まちなみ環境整備事業」と路地整備

もともと路地が暮らしの骨格を形づくっていた下町の良さを残すため、震災復興の手法として路地整備を中心としたまちなみ環境整備事業を行政と一緒に進めてきました。住民自身がルールづくりを行い、窓口となって、路地の権利者と相談しながら整備を進めてきました。

### 野田北かわら版

地域団体の連携の結果、お互いの情報交換が円滑にできるようになりました。それをまとめた地域情報総合誌としての「野田北かわら版」を毎月1回発行しています。

### フラワーサークル、クリーンパトロールから美しいまち宣言へ

震災復興で建物や道路などハードの整備がある程度進むと、今度はソフト的な課題に取り組むようになりました。地区内にJR鷹取駅を抱えていることもあり、ポイ捨てごみや迷惑駐輪・違法駐車の問題があり、また犬猫のフン害なども課題となっていました。そこでプランターを購入し、花を植えて、ポイ捨て・迷惑駐輪をしにくい環境をつくったり、月3回のクリーンパトロールでゴミ拾いをするなど、環境美化の活動を行っています。それらを背景に住民で「美しいまち」へ向けたワークショップを行い、具体的な解決手法や行政との連携の仕方などを検討し、最後は地区内外へ向け発信するため「野田北部 美しいまち宣言」をまとめ上げました。



路地整備



「美しいまち宣言」モニュメント

## パートナーシップ協定の締結

このように、地域団体が連携し、自律的に問題解決を図ろうとする動きを行政面でも最大限バックアップするため、平成16年10月に「神戸市による地域活動の推進に関する条例」が施行されました。この条例に基づき、平成17年6月13日野田北ふるさとネットと神戸市は「パートナーシップ協定」を締結しました。平成17年8月からは、指定管理者としてJR鷹取駅前自転車駐車場の地域管理を行いつつ、放置自転車のない、美しい駅前空間の実現を目指すなど、より自律的、総合的な地域運営に向かってまちづくりが進められています。



平成17年7月調査

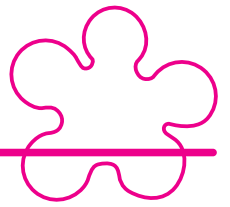


平成17年9月9日調査



平成17年11月15日調査

地域住民が駐輪場の管理を始めて4ヶ月で、駅前周辺に約200台あった放置自転車が、約70台まで減りました。



## 地域に応じた連携

野田北ふるさとネットと六甲アイランドシティ自治会の事例をご紹介しましたが、このように地域団体がうまく連携して活動している地区は、まだそれほど多くありません。地域の実情にもよりますが、その地域で最も望ましい連携のかたちに到達するには、一朝一夕ではいけないことが2つの事例でもよくわかります。各地域ではその現状に即して、とりあえずラウンドテーブルにつく、連携できるところから徐々に始めていく、というのが現実的なようです。地域団体間の連携や協働は、突然その仕組みが出来上がるのではなく、住民の粘り強い活動や話し合いの積み重ねと、協働のステップがひとつずつ進んでこそ、ようやく辿り着くものなのです。それが大きな成果を生み出しつつあることは、間違いありません。みなさんの地域でも、できることから、連携を考えてみてはいかがでしょうか？

